Market Eye

予想を上回る米企業決算発表等を背景に、輸出関連株主導で大幅高

2010年7月14日(水)

第一生命経済研究所　経済調査部
副主任エコノミスト　人見 小奈恵
TEL 03-5221-4523
e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

好調な米企業決算や欧州の財政赤字問題への懸念緩和で、投資家はリスク回避姿勢を修正

英仏独の主要株価指数は予想を上回る決算発表や欧州の財政赤字問題への懸念緩和等から6日続伸となりました。独自動車大手株が2010年通期と4-6月期の業績見通しを上方修正したことが好感されて急伸し、相場上昇に寄与しました。また、ギリシャは6ヶ月物の短期国債の入札を実施しました。平均落札利回りは4.65%と、前回4月（4.55%）より上昇したものの、EUやIMFによる緊急融資の金利水準（5%）を下回ったことから、同国に対する資金調達懸念が後退しました。また米ムーディーズがポルトガルの格付けをAa2からA1へ2段階引き下げましたが、先月末に格下げの可能性が示唆されていたほか、格付け見通しは「安定的」であったことから市場への影響は限定的で、このことも安心感につながりました。

米国株式市場も6日続伸となりました。前日引け後の米非鉄大手株の好決算を受けて好業績期待が広がったほか、ドル安・ユーロ高の進行で商品相場が堅調だったことも素材株にとって好材料となりました。全面高の展開でしたが、相場上昇をけん引したのは主に金融、ハイテク、一般消費財などの景気敏感株でした。

引け後に発表された半導体大手株の4-6月期決算は、売上高が前年同月比+34%増と過去最高となりました。収益力の目安とされる粗利益率も67.2%と過去最高でした。また7-9月期の売上高見通しも市場予想を大幅に上回り、過去最高を更新する見込みで、今年の設備投資額も上方修正しました。これを受けて当銘柄株は時間外取引で一段高となり、他の半導体株にもこれを好感した買いが広がりました。

為替市場ではユーロや資源国通貨などが買い戻され、商品先物価格も軒並み上昇し、株式相場でも景気敏感株中心に上昇が目立つなど、米企業業績の改善や欧州の財政赤字問題に対する懸念緩和で、これまでのリスク回避姿勢を修正する動きが市場全体に広がりました。

好調な米企業決算を好感して日本株は景気敏感株主導で全面高

海外株高や米半導体大手の好決算等を受けて、日経平均株価は前日比で150円以上高い9,700円台で寄り付きました。8割以上の銘柄が上昇する全面高の展開でしたが、中でも大型の輸出関連株が相場上昇を牽引しました。中国株をはじめ、アジア株も総じて堅調であったことから新興国関連株も騰勢を強め、日経平均株価は一時9,800円台を回復する場面もありました。9,800円台に入ると上昇余地は限られ、9,800円の手前の水準での推移が続きましたが、大引けまで終始堅調地合は継続し、結局日経平均株価は前日比+258円高の9,795円と大幅反発して引けました。本日はTOPIXが+1.9%の上昇であったのに対して、日経平均株価は+2.7%と大きく上昇しました。日経平均株価の上昇に最も寄与したのは衣料専門店大手株でした。同社はバングラディッシュの銀行と合弁会社を設立し、同国の雇用創出を目的としたソーシャル・ビジネスを手がけることを発表しました。今月初旬に業績見通しを下方修正し、足元で同社の株価は調整していたことなどから買い戻しの動きも優勢でした。また、米半導体大手株の好決算を受けて、国内の値嵩ハイテク株が軒並み高となったことも日経平均の押し上げに大きく寄与しました。

市場では欧州の財政問題等に対する過度の悲観的な見方が後退し、企業業績に焦点が移り始めました。日米ともに増益基調が見込まれており、予想を上回る好決算が続けば、これまで売られていた景気敏感株中心に短期的に買い戻しの動きが継続することも予想されます。

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。